

◇核となる施策

イメージアップ情報発信の実施（誘致拡大）

1. 日本のオンリーワンに出会えるまちをアピール

- 市外の方がインパクトとを感じるような資源等を抽出して、全国へ効果的な情報発信
…動画サイトの活用で注目を集める

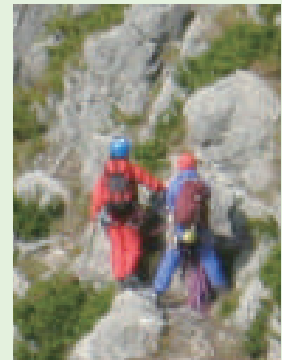
例：資源：明星山南壁とロッククライミング

方 法 ロッククライマーの非日常的な光景・迫力をビデオ撮影
→ニコニコ動画などの動画サイトにアップして注目を集める

発 展 ロッククライマーから登山日の日程を把握
→ホームページに予定日の掲載、
ツアーへの活用（駅から観タクン、定期観光バス）

- 市民や糸魚川に関心のある方からの情報発信

●毎年、動画サイト投稿者やマスコミ等出演者などで優秀者の表彰
（糸魚川市に関するもの）※日本一の石の種類、東西の境界（出会い）…



2. 著名人によるアピール（糸魚川ジオパーク大使）

- イメージビデオを作成
- 首都圏テレビで放送
- 首都圏キャンペーンへの参加
- ツアー商品などへの活用（〇〇大使推奨ツアー等）

おもてなし、情報発信機能・案内の充実（受け入れ）

1. 日本ナンバーワンのおもてなしのまちづくり

- 景観・環境美化などでのおもてなし
- あいさつ・接遇などコミュニケーションでのおもてなし
- イベント・食など体験でのおもてなし

2. スマートフォン等の活用

- ジオサイト巡りに必要な情報を一括提供し、
さらに飲食・買い物・宿泊などにも波及

- ジオサイトごとの解説、行き方、ビューポイント、グルメ、お土産、宿など
- 観光施設や飲食店・宿泊店などともリンクし、クーポン券などによる誘客など
多面的な活用による効果が期待できる

※スマートフォンの糸魚川市周辺地域での普及は低い、新幹線開業のターゲットは首都圏であり、利用者は相当数見込める。開業時には利用できるように調査・検討を進める。
スマートフォン等を利用していない人向けには、看板・パンフレットやガイドなど従来型の案内機能の充実を図る。



3. 糸魚川駅周辺の拠点性の充実

- 総合観光案内所、ジオパーク情報拠点の整備
- 駅からのツアー等の充実

4. フォッサマグナミュージアムのリニューアル

- 糸魚川ジオパークのビジターセンターとして、教育・ガイド機能等の充実

糸魚川ジオパーク戦略プラン

◇ジオパーク来訪者の誘致拡大

(1) 学術的交流の推進

1) 小中学生・高校生の体験学習の誘致

・小中学生・高校生用の体験学習のプログラムを作成し、誘致

2) 大学の研修会等の誘致

・地学系・文科系大学の研修会等の誘致

ジオパークの重要な活動の柱として「大地の遺産を教育に役立てる」ことがある。

学術交流の推進として、大人から子どもまで地域でいつでも体験学習を受けられるシステムを構築する。糸魚川市全体を人文資源と自然資源のキャンパスと考え、農林水産、観光、地域産業など現場での体験を重視し、レクリエーションや下表のジオツーリズムの先にある学術的な部分に関して地域の魅力を知ってもらい、さらに環境貢献による満足度を高めるシステムをつくり、リピーターの増加を図る。

表 ジオツーリズム項目と意味・意義

項目	意味	意義
アドベンチャー・ツーリズム	複雑な地形を河川などに沿って、風光明媚な地域を使い、冒険技術を学びつつ検分するツーリズム	自然地形があり、生態系が生まれ、歴史・文化の技術と触れ合い、自然との共存文化を堪能
トレジャー・ツーリズム	ヒスイ・化石・砂金などを自分の力で探索、採集するレクリエーション	ヒスイ等を自分で考え、探し、見つけることで、自然科学を学ぶことの喜びを経験
スピリチュアル・ツーリズム	5000年の歴史ある地域において、農、山、漁の幸を堪能して、神秘的な森、川、海にたたずみ、心身とも健康になるセラピー	森林セラピーにとどまらず、風致、食、パワースポットといわれる自然界の地域を回る心身のメンテナンス

出典：東京糸魚川会『糸魚川知的冒険の足跡』

1) 小中学生・高校生の体験学習の誘致

首都圏、北信越地方の小中学生・高校生を対象に、地質学習を中心とした体験学習の拠点として充実し誘致を図る。

① 具体策の検討

環境学習や体験学習が学校教育の中でも重要視されており、地域の活性化対策として各地でさまざまな体験メニューが計画され、首都圏の学校などへ情報発信がなされている。また、首都圏の小中学生・高校生との交流を想定した場合、個人や家族で糸魚川ジオパークを訪れるケースより、教育旅行や体験学習の一環として訪れるケースが現実的である。体験学習旅行は一般的に平日に行われることが多く、平日の宿泊率の向上に寄与する。

このことから、小中学生・高校生の地質学習の拠点として、体験学習旅行（遠足、野外活動旅行、修学旅行）や防災学習を主眼においた体制の整備とプログラムを実施する。



(A) 小学生対象のプログラムの作成と誘致

近距離圏（新潟県、富山県、長野県）の小学校5～6年生を対象に日帰り体験学習旅行のモデルプログラムを作成し、誘致を図る。

地域学習や環境学習を目的とし、ジオパークなどの地域資源の見学や伝統工芸体験などの手軽な体験や「防災学習」を主に、ニーズに対応したプログラムとする。

(B) 中学校・高校対象のプログラムの作成と誘致

近距離圏（新潟県、富山県、長野県）の中高生を対象に日帰り体験学習旅行のプログラムを、首都圏の中高生を対象に宿泊をともなう体験学習旅行のモデルプログラムを作成し、誘致を図る。

糸魚川ジオパークの特性を活かしながら、生徒たちが日常的に体験できない特殊性、地域性、自然性のある「防災学習」「壮大な断層体験」を中心に、「自然環境体験」「農林漁業体験」「伝統工芸体験」「野外活動体験」などを組み合わせ、ニーズに対応したプログラムとする。

(C) 上越市・妙高市との連携

上越市・妙高市両市と連携を図ることにより、両市からの参加者や、より充実した体験学習プログラムを作成とすることが可能であり、隣接している妙高市にある「国立妙高青少年自然の家」（宿泊定員 300 人）を宿泊拠点とし、糸魚川ジオパークへの体験学習の誘致を進める。

(D) 指導者、管理スタッフの養成

体験学習旅行を成功させる上で最も重要なことの1つは、体験学習旅行受け入れのスタッフを養成することにある。単体のプログラムを指導する専門的な指導者、旅行行程全体を通じて、その目的とする学習旅行テーマに基づくプログラムの流れや現場指導を含めた管理スタッフの養成が必要である。

新潟県では、地域資源を活かしたグリーン・ツーリズムの一層の推進を図る目的から、2006（平成 18）年度から農林漁業や郷土文化に関する技能を持ち、体験指導を行える人を認定する『にいがた「なりわいの匠」認定事業』に取り組んでいる。糸魚川市でも、多くの人が匠として認定されていることから、その匠を指導者又は管理スタッフとして活用し、新たな人材を養成していく。

(E) 学校の旅行誘致

学校の旅行誘致には、実施主体が自ら行う学校へのモニターツアーの実施と旅行会社を通しての売り込みを実施する。

a) 教員へのモニターツアーの実施

近距離圏（新潟県、富山県、長野県）の小中高校を誘致するために、新潟県・富山県・長野県の小中高校の教員を対象にモニターツアーを実施し、誘致を行う。

b) 旅行会社へのモニターツアーによる情報収集と誘致

首都圏の中学校・高校を誘致するために、体験学習旅行を扱う旅行会社を対象としたモニターツアーを実施し、可能性のある学校の情報収集と誘致を行う。

糸魚川ジオパーク戦略プラン

(F) 防災学習のプログラムの作成と誘致

近年、防災学習への関心が高まっていることから、ジオパークの資源を防災学習のフィールドとして活用する。

糸魚川市にはテーマを持った 24 のジオサイトが存在する。防災学習のフィールドとしては、姫川溪谷ジオサイトで土石流を、権現岳ジオサイトで地すべりと雪崩災害を、月不見ジオサイトで巨大地すべりを、焼山ジオサイトで火山災害などを学習することができる。

糸魚川ジオパークは防災教育においても大いに世界に貢献できることから、これらのジオサイトを含めた防災学習プログラムを作成し、防災学習へ関心の高い学校の誘致を行う。

また、防災学習に加えて、さまざまなジオパークの資源を見てもらい、体験学習の充実を図る。

②対象範囲

誘致の対象とする学校は次のとおりである。

(A) 近距離圏（新潟県・富山県・長野県）の小学校・中学校・高校を対象に日帰り体験学習旅行の誘致を行う。

(B) 首都圏の中学校・高校を対象に宿泊をともなう体験学習旅行の誘致を行う。

③実施主体

翠の里 糸魚川ツーリズム推進協議会

④費用

必要な費用は下記のとおりである。なお、実施組織の管理・運営費等は別途とする。

具体的な施策	実施内容	概算事業費	備考
1. プログラムの作成	①モデルプログラムの作成費	30 万円	パンフレット 10,000 枚 2012 (平成 24) 年度
2. 学生の受入整備	①上越市・妙高市との連携	－	
3. 指導者・管理スタッフの養成	①定期的に指導者・スタッフへの養成に必要な研修等の費用	別途	
4. 学校の旅行誘致	①教員へのモニターツアーの実施	－	
	②旅行会社へのモニターツアーの実施	80 万円	4 万円×10 社×2 年
合計		110 万円	



⑤想定効果

(A) 短期効果 (2013 (平成25) 年度)

短期として、近距離圏（新潟県・富山県・長野県）の小中高校の日帰り体験学習旅行を想定する。年間 15 校受け入れるとして、15 校 × 60 人 × 1 回 = 900 人日（年間）の交流人口を見込む。

(B) 中期効果 (2015 (平成27) 年度)

中期として、首都圏の中高校の体験学習旅行を想定する。年間3校2泊3日の宿泊を受け入れるとして、3校 × 60 人 × 3日 = 540 人日の交流人口を見込む。

近距離圏（新潟県・富山県・長野県）の小中学高校の日帰り体験学習の交流人口 900 人日を加え、1,440 人日の交流人口を見込む。

⑥効果測定手法

学校から実施主体への申し込みや実施報告を記録することにより効果を測定する。

⑦工程

工程は下表のとおりである。

具体的な施策	実施内容	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
1. プログラムの作成	①モデルプログラムの作成					
2. 学生の受入整備	①上越市・妙高市との連携					
3. 指導者、管理スタッフの養成	①定期的に指導者・スタッフへの養成に必要な研修等					
4. 学校の旅行誘致	①教員へのモニターツアーの実施					
	②旅行会社へのモニターツアーの実施					

糸魚川ジオパーク戦略プラン

2) 大学の研修会等の誘致

地学系学科、文科系学科をはじめとした大学の研修会（巡検）やゼミ合宿の誘致を行う。

(A) 地学系の研修会（巡検）の誘致

地学系学科で毎年行われている地質の研修会（巡検）を誘致する。地質の研修会（巡検）は、地質の研修を目的に遠隔地まで行って地質を修学することが目的であることから、糸魚川の地質的価値を大学にアピールすることでルートに組み込んでもらえる可能性は高い。全国の地学系学科（地質学科、地球科学科等）の大学を対象に研修会（巡検）の誘致を図る。

(B) 文科系・歴史の研修会（巡検）の誘致

当地の地理的、歴史的特徴から、方言、伝統芸能、ヒスイ文化など文化的研究の素材と資源が豊富であることから、文科系大学を対象に研修会（巡検）の誘致を図る。

(C) ゼミ合宿の誘致

地学系・文科系学科及びそれ以外の学科専攻の大学ゼミ合宿の誘致を行う。

ゼミ合宿は、研究室の学生同士の交流を深めることや研究意欲を醸成することが主たる目的であり、そのために必要な要素は、1. 研修・ミーティング施設、2. 宿泊（温泉）施設、3. 周辺環境（海、湖、森林などの自然環境）の3つである。糸魚川ジオパークには、地質資源のほか、海・山の動植物の自然環境資源が豊富であり、農業・林業・漁業の産業がひとつの地域にあることから、自然科学系学科や社会科学系学科のゼミ合宿にはよい環境といえる。

① 具体策の検討

(A) プログラムの企画

研修会（巡検）等に沿ったプログラムを企画する。

(B) パンフレットの作成

プログラムに沿ったパンフレットの作成を行う。

(C) 誘致活動

対象となる大学に対して資料を提供し誘致活動を行う。

(D) 合宿支援制度の導入

学生の宿泊条件として、宿泊費用が安価であることが重要である。その支援制度として、学生が合宿を行った場合、1泊あたりの金銭的補助を行う制度を検討する。

※参考：富山市合宿補助制度 延べ宿泊人数が50人以上×1,000円
（市内宿泊施設でバンガロー、キャンプ場等を除く）



②対象範囲

誘致の対象とする大学は次のとおりである。

(A) 地学系の研修会(巡検)の誘致対象

全国の地学系学科の大学（北海道大学、弘前大学、秋田大学、東北大学、山形大学、茨城大学、筑波大学、千葉大学、東京大学、東京工業大学、新潟大学、富山大学、金沢大学、信州大学、静岡大学、名古屋大学、京都大学、神戸大学、島根大学、岡山大学、広島大学、山口大学、徳島大学、愛媛大学、高知大学、九州大学、熊本大学、鹿児島大学、琉球大学、首都大学東京、大阪市立大学、日本大学、早稲田大学など）を誘致の対象とする。

(B) 文科系・歴史の研修会(巡検)の誘致

国内の国公立大学の全て。その他、札幌国際大学、東北学院大学、東北芸術工科大学、茨城キリスト教大学、和洋女子大学、早稲田大学、慶應大学、明治大学、法政大学、立教大学、國學院大學、国士舘大学、帝京大学、東海大学、日本大学、神奈川大学、立正大学、青山学院大学、山梨学院大学、中京大学、南山大学、星学館大学、立命館大学、同志社大学、龍谷大学、大谷大学、関西大学、関西学院大学、近畿大学、学習院大学、上智大学、中央大学、東洋大学、駒澤大学、金沢学院大学、敬和学院大学、佛教大学、京都橘大学、帝塚山大学、甲南大学、西南学院大学、別府大学などを誘致の対象とする。

(C) ゼミ合宿の誘致対象

自然科学系学科や社会科学系学科の首都圏の大学を誘致の対象とする。

③実施主体

糸魚川ジオパーク協議会、糸魚川市、糸魚川市観光協会

④費用

必要な費用は下記のとおりである。実施組織の管理・運営費等は別途とする。

具体的な施策	実施内容	概算事業費	備考
1. プログラム企画	①プログラムの企画	－	
2. パンフレット作成	①作成費	30 万円	2,000 部
3. 誘致活動	①資料の提供・誘致	－	
4. 合宿支援制度の検討	①合宿制度の導入	－	
合計		30 万円	

⑤想定効果

2015（平成 27）年度には、年間 15 校の2泊3日程度の行程の研修会（巡検）やゼミ合宿を誘致し、15 校×20～30（人／校）×3日＝900～1,350 人日の交流人口を見込む。

糸魚川ジオパーク戦略プラン

⑥効果測定手法

学校から実施主体への申し込みや実施報告を記録することにより効果を測定する。

⑦工程

工程は下表のとおりである。

具体的な施策	実施内容	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
1. プログラム企画	①プログラムの企画					
2. パンフレット作成	①パンフレットの作成					
3. 誘致活動	①資料の提供・誘致					
4. 合宿支援制度の検討	①合宿制度の導入					